

滑稽新聞

〒444-0103 愛知県額田郡田原町
大字大字字福宜屋敷(科法)63-1
自分だけにくれているの、師匠から恨みの名号
第355号 創刊1990年7月28日
Email kokkei1949@yahoo.co.jp

滑稽新聞

明るい笑顔、明るい声、退院する姿を迎へに行く。遠くから見つけ、笑顔が近づいて来るだけで人は嬉しくなる。人に会う時は嬉し気に会う時は嬉し気に会うと、相手も嬉し気になる。たとえ息子が減入していても、黒川伊保子

結婚記念旅行は浜名湖

一か月遅れでミニ旅行を楽しんだ。宿はデューシー三日保養所、リゾートホテル並みの施設で、眼前に静かな浜名湖の湖面が広がる。妻のコロナ感染も治まり、旅先でも豪華な晚餐と二人でゆったりと楽しめた。料理は、勿論美味しかったが、こういう施設に泊るだけでもソニーと言っただけに驚かされた。ことごとく更ながら有難いと感じずにはいられない。



デューシー三日保養所 AQUAWINGS

翌日は、浜松市動物園に。6年前に独研会で旭山動物園を訪れて以来の動物園探訪。入口で「70才以上は入園料無料です」と言われ、自分の年齢に「と嬉しさを感じた。動物の顔と観察すると面白い。各々異なった顔といるが、どれも皆のんびりしている。いかにも平和」と言う表情に見える。人間の顔を見飽きたり、気分転換したくなったら動物達の顔を見に来ると良いかも知れない。



毎年この日「夫婦」と確約合

老舗「藤田」に寺川進・千佳親子夫妻と食事をこく縮した。三河一色も護産地としては



浜松城の守り隊

浜松と双壁だが、130年の歴史を誇るこの店は別格だった。年に1回か2回のチャンス。この日高級料理「なま重」とおめで、恭しく頂いた。その美味しさは、値段に決して負けていなかった。同伴した寺川の夫妻の饒し出す空気を手伝って。所角浜松に来たのだから、と言う訳で浜松城に立ち寄った。時まに大河ドラマ、というする家康の開始直前、城周辺には早くも家康様に焦点を当てて運が街のあちこちに漂っていた。家康の生れ故郷岡崎は、浜松・静岡を向こうに回してどう盛り上げるか、どうする岡崎。

初めてののお泊り帰省

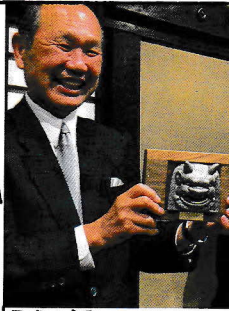
息子夫婦の帰省を代行している親の身持ちを何度もか。年々、息子が初々しい様子を連れて来てくれた。コロナ禍の行動制限が解除されたこともあって、迎える親としてはこんな嬉しいことはない。鏡餅作りを一緒にやった。「餅と言ったらお正月でサトウの餅を買った」と思っ「さよ、さよ」と言っ美鈴さん、懐かしい手つきで餅を丸めて鏡餅を作り、依禮、神棚にお供えした。翌日は餅が食べられて、初めの二人で我が家に泊まると言うので大掃除をした。全くの想定外だったのは、廊下の雑巾がけ。雑巾がけと言えは、小学校の授業の後、掃除や、寺の雲水の修業を思い出す。「お茶の子さいさい」と始めたのだが、思い通りに行かない。足が前に追まないので、みかしい、こんな苦では無い」と思っているから、そうか老化現象と言うのはここから来たのか？「むと、短い廊下にしてあげれば良かった」と、この老化を廊下のせいにしてた。



親子揃って初めての鏡餅作り

知性と品格の寺川





「元の顔に似てる?」

元海佐 松田茂則君受賞祝賀会

今年送りで開かれた。会から贈った記念品は、杉浦さんが無二知恵と絞って考え、決めた「鬼瓦家守」の中の「笑鬼面」。海上自衛官として都合21回全国各地を転勤し、日本の周辺を海を守ってきた。ささやかな作らう、そのお返しとして、今後は「鬼瓦」が彼の家を守り、くくれるだろう。

「ごめんば、1年を笑って過ごせるように」。なかまの会から次々と立派な受賞者が誕生し、同学生として誇らしい。今回の記念品は「笑鬼」として、杉浦さんのコンセプトに合う良い選択だったと自画自讃した。



十分に熱いお祝いの会が、十分に熱いお祝いの会が、十分に熱いお祝いの会が...

冬と言えはやばり芋煮会

前年同様、左側の少教のリエストに充てる芋煮会を開いた。ゴッドファミリー夫妻と元役員職員の次男君が共同で栽培・収穫した里芋を料理教室の野澤先生作成レシピに沿って大鍋で作った。ヒマを待つ余り、ささやかな世話をした人、喋りたことも聞かされる相手がいな人等、総勢33人。



鍋奉行は健ちゃん



会場はJA宮農センター

人が多量。幸田中学校のミニ同窓会は熱い鍋料理と互いのお喋り、盛り上がり。生理的欲求が満たされた若かりし頃、「いっかほ皆で混浴の温泉に旅行したいわ」と言っていた輩は、そのことをすっかり忘れてる。あの「欲」と「浴」はどこに消えたのか?



新海誠監督「もののけ姫」

慌ただしい中、映画の本も

見えてしまった。話題の作品は与内に見えなくて、と劇場に走った。扉の向こうから訪れる「大い」を眺むたのにする(鈴芽)は扉を開ける旅に出る。子供用に作られた椅子が本足になり、随所に現れる。こいかに不気味な人気が、作だがオジさんには理解が難しいアノメだ。Dr.コトーは離島の医療の廢一と一人の医師の奮闘ぶりが凄まじい物語り展開を描かれており、涙を流している暇も与えてもらえなかつた。今だに脳裏に残っているのは中島みゆきの「銀の龍の背に乗る」の曲。このトラマにピッタリだ。



映画「Dr.コトー診療所」 Dr.コトー診療所

汗・雑感

△隣りの黒ネコが我が屋敷を闊歩している。今はそんなのんびりしている時じゃないだろう。本業に戻ると配達の仕事に行き、師走なんだから」と追いつ返した。

△「どうかがヨリますように」と祈り、年末ジャンボ宝くじを買った工居さん。「生涯最高の宝くじ(奥様)を射止めたのだから、この上更に欲をかいと宝くじだなんて」とメッセを送った。杉浦さんに「登壇一回」と返事が来た。

△仙台台有英高野球部の後援監督の「青春は家」を再放送された。老人は粗ぶりと理解するのは...



タイガーマスク

▽「白連続」超早起きとE.サッカー対ス페인戦観戦と翌日の命題。識があれば目覚めるものなのだ。▽動物園で一番人気があるのは虎。柵に沿ってカメラマンがズラリ。残り少ない今初4年(寅年)を惜しむか? 新発見、虎は水中を泳ぐ。